

次の100年へ 更にその先の未来に向かって



福山100NEN 教育 7th year

2022年8月23日

第6回教育振興基本計画部会
話題提供

公立学校の役割と責任 ～令和の日本型学校教育の構築へ～

- 1 福山100NEN教育がめざすもの
 - ・スタート時の知徳体の状況
 - ・全ての施策の中心に“学びが面白い”
- 2 主体的・対話的で深い学び
 - ・小学校学びづくりパイロット校 他
- 3 多様な学びの場の充実
 - ・生徒指導規程の見直し 他
- 4 リアル＆デジタル “学びが面白い”の深化



私たちの毎日が、未来になる。

日々の授業を中心とした
全教育活動の中で、
「21世紀型”スキル&倫理観”」
を育み、
日常の様々な場面で
行動化できる学びをつくる。

【広島県福山市】

面積：518.15km²
人口：462,046人
小学校70校，中学校30校
義務教育学校2校，中高一貫校1校
児童 24,482人 生徒 11,872人

福山市教育委員会
教育長 三好雅章

2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)												
〈国〉小学校「学習指導要領」実施 〈国〉「GIGAスクール構想の実現」 ・校内通信ネットワークの整備、児童生徒一人一台端末の整備による公正に個別最適化された学びの実現 〈国〉「改正給特法」第7条関係施行・教職員の業務量の適切な管理 〈県〉「公立高等学校入学者選抜制度の改善」(令和5年度から) <u>15歳の生徒に付けさせたい力(自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる力)</u> 〈県〉「学校における働き方改革取組方針」(令和2年3月)	〈国〉「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)令和3年1月 中央教育審議会 〈県〉「教育に関する大綱」 令和3年2月 生涯にわたって主体的に学び続け、多様な人々と協働して新たな価値を創造する人づくり 〈国〉中学校「学習指導要領」実施 〈国〉「義務教育標準法の一部を改正する法律」J4/1 施行 ・小学校学級編成の標準の引き下げ(40人→35人) ・少人数学級の計画的整備(段階的にR7年度末迄に)	〈国〉高等学校「学習指導要領」実施 〈国〉中央教育審議会「教育振興基本計画部会」スタート ・次期(R5～R9)の教育基本計画の策定及び円滑な実施について議論 ・内容…「リアル」と「デジタル」の最適な組合せ、共生社会の実現を目指した学習環境、多様な教育データを活用するための方策 等 〈県〉広島県教育支援センター「SCHOOL'S」開校 ・不登校等の小中学生を支援する教育支援センター 〈県〉新しい制度による公立高等学校入学者選抜実施 ・生徒が主体的に志望校を選択 ・「自己表現」の実施 等												
5th year 「子ども主体の学び」全教室・全学年展開 学びが面白い！ 学びが面白い！ 学びが面白い！ 2020 踏み出す 4/16～5/6 全国に緊急事態宣言発出 → 福山市立学校 一斉臨時休業 (4/15～5/31)	6th year 「福山みらい創造ビジョン」(2021～2025)	7th year 「第三次福山市教育振興基本計画」(2022～2026) 「第三次福山市子ども読書活動推進計画」(2022～2026)												
◆〈小〉学びづくりパイロット校【+4校】 ◆〈中〉探究学習プログラム【新規5校】 ◆〈中〉外国語ラウンドシステム【+10校】 ◆学力の伸びを把握する調査【全校実施】 ◆全校・校区でSDGsの設定 ・SDGsを基盤としたカリキュラムの見直し ◆「大好き！福山へふると学習～」 副読本(デジタル版)リニューアル開始 SDGsスタートブックの編集 (2020年度末完成) ◆福山ティーチーズ・アカデミー ・これまでの価値観を問い直し未来の教育に向けた実践研究 (対象:市立学校教育 50名) ◆小学校1学年担任研修 ・子どもが読書や算数に大切にする学びづくり	◆〈小〉学びづくりパイロット校【11校】 ◆県・小学校低学年学ぶ喜びサポート事業【1/1年】(平年小) ◆〈中〉探究学習プログラム【新規3校】 ◆県:探究的な学習の在り方研究推進事業【1/3年】(一橋中地区) ◆県:キャリア教育カリキュラム開発事業【1/3年】(新市中央中地区) ◆県:個別最適な学びに関する実証研究事業【1/2年】(国山中) ◆〈中〉外国語ラウンドシステム【全校】 ◆県:5ラウンドシステムに関する実践的研究【1/1年】(国山中) ◆県:中学校英語ICT活用による言語活動充実【1/1年】(国中の部) ◆学力の伸びを把握する調査【全校実施2年目】 ◆ICT活用研修(基礎・発展・応用) ◆教職員ニーズ研修 ◆外国語ラウンドシステム実践交流 ◆「学ぶ過程」の評価システム等の研究・構築 ◆ICT活用研修(基礎・発展・応用) ◆教職員ニーズ研修 ◆外国語ラウンドシステム実践交流 ◆「学ぶ過程」の評価システム等の研究・構築 福山100NEN教育研究員による分析・考察	◆県指定事業の継続・拡充 ・小学校低学年学ぶ喜びサポート事業【坪生小】 ・探究的な学習の在り方研究推進事業【一橋中地区】 ・キャリア教育カリキュラム開発事業【新市中央中学校区】 ・5ラウンドシステム実践的研究【国山中】 ・英語ICTによる言語活動充実【朝の浦学園】 ・小学校教科担任制実践校【緑丘小、駅前西小】 ◆幼保小連携仕組み構築 ・公私立幼・保・認定こども園等と小学校の計画的な連携・接続 ◆学力の伸びを把握する調査【全校実施3年目】 ◆ICT活用研修(アプリケーション・教科) ◆幼保小合同研修の充実 ・遊びや体験を通じた学びづくり ◆個に応じた学びづくり研修 ・アセスメントに基づき支援の在り方												
2020 経産省「未来の教室」実証事業 《継続》モデル校: 城東中 ◆「かがやき」(フリースクール)西部開設 ・在籍校と連携し、登校が難しい児童生徒へ個に応じた指導・支援を行う場(既存:中央、東部) ◆GIGAスクール構想 ・全児童生徒1人1台端末提供(年度内) ・学習用クラウドサービス活用(Google 社) ・赤坂 GIGA スクール実証事業(株)メディアテック心) ・リッパル実証事業(株)ベネッセ・リッパル心) ◆学校図書館の充実 (2020年度23校改修) ・環境整備(図書館改修、蔵書の廃棄・購入等) ・補助員等研修実施(学校図書館運営・活用等) ・改修予定20校以外の図書館の整理 ◆地域学習活動支援事業 (改修校数:28 土佐校数:2)《413人》	2021 経産省「未来の教室」実証事業 《継続》モデル校: 城東中 ◆1人1台端末未整備による「個別最適な学び」の推進 ・文科省実証事業によるデジタル教科書の活用【全校】 ・各校が選択したEdTech(AI型ドール等)の活用 ・オンライン授業の研究・実施(緊急時の学校休業等へ対応) ・不登校傾向にある児童生徒へのオンライン学習 等 ◆フリースクールの充実 校内:きざりルーム【6中2小+21中14小1園】 校外:「かがやき」【中央、東部、西部】 ◆県・不登校サポーターチーム(SSR)【国中地区】 ◆学校図書館の充実 (2021年度20校改修) ◆民間・公共プールを活用した水泳授業【+6校(計12校)】 ◆2022 学校再編による新設中学校4校開校！最終年準備 ・「イナプラン教育」(常石にも学園)【1/11 認定No.2】 ・特設校「広瀬学園」・義務教育学校「想青学園」・中二階校「新市中央中学校」 ◆地域学習活動支援事業 (改修校数:31 土佐校数:2)《500人》	2022 経産省「未来の教室」実証事業 《継続》モデル校: 城東中 ◆学習端末を活用した学びの深化 ・文科省実証事業によるデジタル教科書の活用【全校】 ・オンライン・オンデマンド授業の充実(授業目的送信機) ・「課題」の対応と活用(授業ガイダンス)策定 ◆フリースクールの充実 校内:きざりルーム【6中2小+23中21小1園】 校外:「かがやき」【中央、東部、西部】 ・10月:かがやき東部を伊予市幼稚園時地へ移校 ・アセスメントに基づきサポート計画の策定・活用 ◆民間・公共プールでの水泳授業【+2校(計14校)】 ・活用ガイダンス「図書館から学校図書館へ」策定 ◆福山中・高等学校第V期ビジョン策定 ・探究・グローバル・キャリア教育、部活動の充実 ・高等学校野球部を強化クラブに指定 ◆地域学習活動支援事業 (改修校数:31 土佐校数:2)												
○夏休み(8月のみ)短縮～年間を通して授業時間原則5時間の実施 ○評価の在り方、使用教材の見直し 2020年度 時間外勤務の状況 <table border="1"> <tr> <td>45h以内</td> <td>小:96.6%</td> <td>中:77.2%</td> </tr> <tr> <td>80h超</td> <td>小:0.01%</td> <td>中:0.2%</td> </tr> </table> ♥図書館補助員 28人 ♥校務補助員(県)13人・(市)93人 ♥部活動指導員 45人 経産省「未来の教室」実証事業「部活動プラットフォーム」 ・プロアシリートなど専門のコーチからオンラインによるサポート 《継続》モデル校: 城北中、福山中高 実証企業: 住友商事	45h以内	小:96.6%	中:77.2%	80h超	小:0.01%	中:0.2%	○「働き方改革取組方針」改訂 ○1人1台端末を活用した業務改善 ・生徒出席簿のデジタル化試行実施 ・「福山100NEN教育」アンケート ○校務の情報化 (学級通信、採点・成績、校務支援システムの充実等) 2021年度 時間外勤務の状況 <table border="1"> <tr> <td>45h以内</td> <td>小:94.4%</td> <td>中:73.6%</td> </tr> <tr> <td>80h超</td> <td>小:0.1%</td> <td>中:1.6%</td> </tr> </table> ♥図書館補助員 34人 ♥校務補助員(県)38人・(市)93人 ♥部活動指導員 68人 ♥学習指導員 36人 ♥校務補助員(県)38人・(市)93人	45h以内	小:94.4%	中:73.6%	80h超	小:0.1%	中:1.6%	○人材確保の仕組み構築 ○1人1台端末を活用した業務のデジタル化 ・出席簿デジタル化全校実施等 ○部活動指導体制の見直し ・段階的な地域移行等【モデル校: 国取中】 ○統合型校務支援システム構築に向けた準備 ♥図書館補助員 37人 ♥部活動指導員 66人 ♥学習指導員 39人 ♥校務補助員(県)48人・(市)93人
45h以内	小:96.6%	中:77.2%												
80h超	小:0.01%	中:0.2%												
45h以内	小:94.4%	中:73.6%												
80h超	小:0.1%	中:1.6%												

知(確かな学力)・徳(豊かな心)・体(健やかな体)の状況

福山100NEN教育スタート2016年前後

知「全国学力・学習状況調査」正答率 (%)

			小学校			中学校		
			2016	2017	2018	2016	2017	2018
「知識」 A問題	国語	市	78.6	77	74	74.1	77	75
		国	72.9	75	71	75.6	77	76
	算数 数学	市	78.3	82	66	59.3	63	65
		国	77.6	79	64	62.2	65	66
「活用」 B問題	国語	市	59.8	61	58	64.4	70	60
		国	57.8	58	55	66.5	72	61
	算数 数学	市	48.7	47	53	41.9	46	43
		国	47.2	46	52	44.1	48	47

徳 暴力行為・不登校の発生率・生徒率 (%)

		小学校			中学校		
		2015 → 2016 → 2017			2015 → 2016 → 2017		
暴力 行為	市	0.26	0.27	0.23	1.11	1.17	1.05
	国	0.26	0.35	0.44	1.00	0.92	0.89
不登 校	市	0.69	0.75	0.76	2.78	3.60	3.57
	国	0.43	0.47	0.55	2.95	3.14	3.38

体 体力テスト県平均以上の種目率 (%)

小学校			中学校		
2015 → 2016 → 2017			2015 → 2016 → 2017		
80.2	81.3	87.5	51.9	55.6	72.2

日々の授業で、

- ・ 発表する機会が与えられていた。
- ・ 話し合う活動をよく行っていた。
- ・ 目標(めあて・ねらい)が示されていた。
- ・ 授業の最後にふり返る活動を行った。

2016年		2017年	
小	中	小	中
86.5	87.3	86.0	87.6
83.8	82.3	84.3	83.1
91.1	96.2	90.3	96.2
82.5	84.2	81.6	86.1



子どもたちは、活き活きと 学んでいるか？
本当に わかっているか？

わかるとは？ できるとは？ 「学ぶ」とは？



「学ぶ」とは「**生きた知識を得ること**」である。

- ・ 知識を「教えてもらう」
のではなく「自分で探す」。
- ・ 持っている知識を総動員して、知っていることと関係づけながら理解する。



死んだ知識

- ・ 上塗りされて膨らませるだけの断片的な知識
- ・ いつ、どのように使ったら良いのか分からない

「学びとは何か」ー〈探究人〉になるために
慶応義塾大学
今井むつみ教授 著



小学校 学びづくりフロンティア校事業

〔目的〕 小学校入学時、既に身に付けている力に差があることを前提に、全ての子どもたちに確かな学力を付ける。

国語科・算数科の授業を中心に、

2小学校（南小，光小）の1年生が「言葉」と「数」を獲得する過程を2年間追い続ける。

改めて明らかになった「子どもが学ぶ過程」

- ◆ 「できる」と「分かる・理解する」ことは、必ずしも同じではないこと。
- ◆ 一人一人、「分かる・理解する」過程や方法、スピードは異なること。
- ◆ 子どもたちは、「対話」を通して、経験や既習の知識と繋げながら、自分で学んでいくこと。
- ◆ 子どもたちの問い（疑問）は教科を横断し、学年を縦断しながら、思考を繋げ・広げ・深めていくこと。



「学びが面白い！」とは、
子どもたちが「**内発的動機付け**」
に基づき、自律的に学ぶ姿



内発的動機付け

自律的

- * 新しいことを知ることができて嬉しい
- * 問題を解くことが面白い

外的動機付け

非自律的

- * 叱られたくない
- * ご褒美がもらえる
- * 褒められたい

“学びが面白い”に向かって大切にしてきた(きている) 考え方(価値)

- 3つの転換 〈1〉授業・・・教師が教え込む→子どもたちが自ら考え学ぶ
- 〈2〉組織(マネジメント)・・・鍋蓋→ビラミット→フラット
- 〈3〉評価・・・数値・結果→実感・過程

■ 計画・予定通り VS 臨機応変 既成概念・価値観(当り前) VS 疑問(何故?)

■ カラフル・もっと²カラフル

■ 多様性, 持続可能性

■ 固定観念・成功体験のリングから踏み出す

■ 使えるものは何でも使う, できることから できる人から, 挑戦!
既存のルールにとらわれず臨機応変・何でもやってみる

■ 自己選択・決定→自己実現!

■ 認知の仕組みから学習方法を見直す (1)「知っている」と「使える」は別 (2)わかりやすく教
えれば, 教えられた内容が学び手の脳に移植されて定着するという考えは, 幻想である。

■ デジタル・シティズンシップ, ファシリテーション

■ 「理念・抽象」と「実践・具体」の往還 「質」を求めて「実」を追求する

主体的・対話的で深い学び

◆ 小学校 学びづくりパイロット校

「子どもがどう学ぶか」という視点から、教育課程を編成・実施。



国語科の古典、社会科の室町文化の学習など
と関連付け、「能」をテーマにした探究学習

指定校：小学校11校（南・多治米・水呑・遺芳丘・坪生・新市・千年・高島・伊勢丘・神辺・鞆の浦学園）

【取組1 教育課程の編成・実施】

【取組2 評価の見直し】

◇ 教科横断的な学びや異学年で学ぶ教育
課程・単元等を編成・実施

◇ 長い期間で学力の定着を確かめるテストや、
作文や作品を綴じたファイル等を工夫し、
「学ぶ過程」を評価

◆ 中学校 探究学習プログラム

〔企業と連携〕（株）教育と探求社

企業が開発した「答えのない問いを協働的に解決する学習プログラム」を総合的な学習の時間に導入。

プログラム	概 要	指定校		
		2021	2020	2019
企業探究コース	実在企業からのミッションにより、教室でインターンシップを体験する	松永・千年	城南・幸千	新市中央
進路探究コース	先人の生きた軌跡から、自らの生き方・働き方等を考える	駅家	一ツ橋	城北・東朋
社会課題探究	自ら発見した社会課題の解決に取り組む	—	城西	鳳
起業家	ビジネスの種を発見し、新商品を開発する	—	神辺	城東



◆ 大好き！福山 ふるさと学習 〔他課と連携〕文化振興課 他 (デジタル版副読本&SDGsスタートブック編集)

- ・ 福山の資源や人々の営みをまとめた副読本を編集（2015年）し、2020年度から、1人1台の学習端末で活用できる「デジタル版」として再編集。
- ・ 全校・校区でSDGsを設定した課題発見・解決学習を実践するための福山市版SDGsスタートブック編集。

〔企業と連携〕（株）東京書籍 8

◆ 学力の伸びを把握する調査（埼玉県学力学習状況調査）

小学校4年生から中学校3年生まで、継続的に調査を行い、児童生徒が、自分自身の伸びを自覚し、自己の学びを振り返る

〔他自治体と連携〕
埼玉県教育委員会

〔企業と連携〕
教育測定研究所

2018年度～ 2中学校区(2中6小)で先行実施

2020年度～ 全校実施

	実施教科	小4	小5	小6	中1	中2	中3
教科	国語	○	○	○	○	○	○
	算数・数学	○	○	○	○	○	○
	英語	—	—	—	—	○	○
	アンケート	○	○	○	○	○	○

これまでの調査との違い

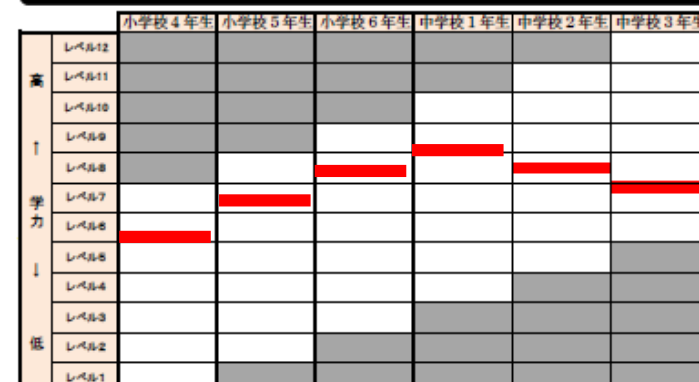
- 世界共通の英語テスト「TOEFL」や学習到達度調査「PISA」等と同じ理論で作成
- 国・県平均と比較して、高いか・低いかを見るのではなく、同じ児童生徒の前年度の学力と比較し、伸びた割合や変容を見る
- 教職員は、教科に特化した分析のみならず、日々の授業での児童生徒の姿を思い起こしながら、結果の要因を考える

国語

教科に関する調査結果

今までの学力の変化

あなたは、「レベル7」の学力があります。



小4 小5 小6 中1 中2 中3

児童生徒には、教科ごとに学力の変容が分かる調査結果が返却され、自分の学力等の伸びを自覚できる

◆ 1人1台学習端末の活用



- ◇ 整備台数 : 39,000台 (児童生徒用, 教員用, 予備)
- ◇ Wi-Fi環境 : 通常学級 特別支援学級 体育館
小学校 音楽室 理科室 図工室 家庭科室 ランチルーム
中学校 音楽室 理科室 美術室



「デジタル・シティズンシップ」の考え方を基に、「使ってみる」ことからスタート

- 検索サイトを活用した調べ学習
- 一斉学習の場面での活用
 - ・ 一人一人の反応や考えを画像等で把握し, 互いに意見交流
- 文章作成ソフト, プレゼンソフトの利用
 - ・ 子どもたち一人一人が考えをまとめて発表したり, リアルタイムで考えを共有
- 一人一人の学習状況に応じた個別学習
 - ・ 一人一人の学習進捗状況を把握し, よりきめ細やかな支援等を実施
- オンラインで提示された課題や学習用アプリに取り組む家庭学習
- オンライン授業
 - ・ 集団での学びが難しい児童生徒が, 校外のフリースクールから授業に参加
 - ・ 臨時休業, 分散登校などの緊急時に, ビデオ会議システムを使った双方向の授業



文科省の実証事業に, 市内全校が参加

EdTech デジタル教科書

自校の特色や学びに応じてA I型ドリルや遠隔会議などのアプリ, 教科等を選択

ICTスキル向上研修

〔企業と連携〕 Google社 他

専門スタッフを講師に迎え, 段階的にICTスキルを身に付ける

ガイドブック作成

2021年度、デジタル・シティズンシップの考え方の基で児童生徒が学習端末を活用する中で、各学校において見えてきた課題及び解決策などを集約・整理

〔主な内容〕

- 1 健康面での影響と対策等
- 2 学力面での影響と対策等
 - (1) 書くこと (2) 調べること
 - (3) AIドリル等の活用
 - (4) 思考の深まりなど
- ★大切にしたい「リアル」6
- 3 使い方の課題と対策等
- 4 学習端末を使う時の約束（例）



大切にしたい「リアル」6

- 【書く】
- 1 小学校低学年の授業で、文や文章、数や式、計算を書く
 - 2 国語科の「言葉の特徴や使い方」「書くこと」の単元で、文字や漢字を練習したり文や文章を書いたりする
 - 3 文字や漢字、英単語など、覚えることを目的に練習する
- 【話聞】
- 4 ロイロノート等で意見を集約したのちの意見交流、対話
- 【調べる】
- 5 国語辞典や漢字辞典の使い方の学習
 - 6 図書室の本や教科書・資料集等による調べ学習を通した固有の知識の習得

➡ 2022年度～ 教委HPに各校の「学習端末活用の約束」を掲載 11

学習端末の活用状況

〔小学校〕

令和4年 全国学力・学習状況調査 質問紙調査 (%)

		ほぼ毎日	週3回以上	週1回以上	計
5年生までに受けた授業で、P C・タブレットなどのI C T機器を、どの程度使用しましたか	福山市	36.5	34.0	19.9	90.4
	全国	26.7	31.5	25.0	83.2
学校で、授業中に自分で調べる場面で、P C・タブレットなどのI C T機器を、どの程度使っていますか	福山市	24.5	38.5	25.9	88.9
	全国	14.3	29.6	32.2	76.1
学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、P C・タブレットなどのI C T機器を、どの程度使っていますか	福山市	10.4	22.4	31.8	64.0
	全国	6.4	16.1	26.9	49.4
学校で、自分の考えをまとめ発表する場面で、P C・タブレットなどのI C T機器を、どの程度使っていますか	福山市	10.5	19.6	27.9	58.0
	全国	6.9	14.8	23.5	45.2

〔中学校〕

		ほぼ毎日	週3回以上	週1回以上	計
2年生までに受けた授業で、P C・タブレットなどのI C T機器を、どの程度使用しましたか	福山市	55.3	29.7	11.5	96.5
	全国	21.6	29.3	29.7	80.6
学校で、授業中に自分で調べる場面で、P C・タブレットなどのI C T機器を、どの程度使っていますか	福山市	37.9	36.6	19.6	94.1
	全国	12.3	24.9	34.5	71.7
学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、P C・タブレットなどのI C T機器を、どの程度使っていますか	福山市	17.6	27.9	29.4	74.9
	全国	5.0	12.8	25.7	43.5
学校で、自分の考えをまとめ発表する場面で、P C・タブレットなどのI C T機器を、どの程度使っていますか	福山市	16.6	20.8	25.0	62.4
	全国	4.7	10.3	20.3	35.3

◆ 特別支援教育

○ 「放課後デイサービス」との合同研修

〔民間と連携〕

児童生徒の力や可能性を伸ばしていくために、学校と放デイが連携・協力する体制を構築し、充実させる。

- 【主な内容】
- ・ 個別の支援計画を基にした児童生徒の様子や生活・学習状況等の交流
 - ・ 特別支援学級の授業を参観し、よりよい支援の在り方を交流・協議
 - ・ 個を特定したケース会議 等

○ 「アセスメントに基づく指導支援実践研究校」

【小学校3校】

〔企業と連携〕(株)LITALICO

【目的】 障がいの特性に応じた支援に係る研修や特別支援学級への具体的な指導・助言を継続して実施し、特別支援学級の授業改善を推進する。

- 【主な取組】
- ・ LITALICOと協働したアセスメント（状況分析）の実施や個別支援計画の作成
 - ・ 個別の学び支援システムの教材サイトにて、サポート教材を活用
 - ・ 放課後等デイサービスなど、関係機関との連携を充実させ、多様な視点をもったチーム支援

○ 「子ども発達支援センター」教員長期研修

〔6か月〕

〔他課と連携〕 保健部

【目的】 就学前の子どもの発達に関わる相談や診察、訓練などの医療的支援の実際を通して、発達障がいの診断の概念や保護者への支援の考え方を理解し、学校での個に応じた学びへの支援について、他の教員への指導的な役割を担うことのできる人材を育成する。

- 【内容】
- ・ 医師による診察に基づくカンファレンス等への参加
 - ・ 保健師、保育士を中心とした保護者との面談等の見学、補助
 - ・ 小学校等における個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成、活用、見直しへの参画 等

◆ 幼保小連携

乳幼児期における子どもの自発的、創造的な遊びや体験を通じた育ちと学びを基本に、安心感を持って小学校生活に移行し、自己を発揮し成長していくために、就学前施設と小学校の連携・接続の仕組みを構築し、内容の充実を図る。

参加幼保小 〔民間と連携〕

小学校・義務教育学校 72校
公立幼・保・認定こども園等 54園
私立幼・保・認定こども園等 104園

2022年

5月30日 「福山市幼保小連携教育キックオフ会議」開催

6月 幼保小連携校区（連携協議会）決定

6月28日 福山市幼保小連携教育合同研修会

7月～ 各校区で計画的に連携協議会を開催



○ 「幼保小学びの接続カリキュラム開発校事業」【2連携校区】

【目的】 就学前教育と学校教育の連携・接続を発展させ、学びの連続性を確保するカリキュラムを開発・実践する。

- 【主な取組】
- ・ 遊びや体験を通して学ぶカリキュラム開発と実践・評価・改善
 - ・ 数や言葉（語彙）、思考などの「学びの基盤に関する調査」を実施し、結果の分析をカリキュラムに反映
 - ・ 幼保小連携協議会の充実



多様な学びの場の充実

子ども一人一人の考えや学ぶ過程が異なることに立ち、全ての教室・教育活動において、多様性を認め合える場への転換

♣ 2017年度～ 生徒指導規程の見直し

- ① 各中学校区，各学校の実態
- ② 外国籍やL G B Tなどの多様性や違いをこれまで以上に認め合う社会への変化などを踏まえ，児童生徒が主体となって「考え・作り・守る」ものへ

➡ 2020年度～ 教委HPに各校の「生徒指導規程」を掲載
見直しを継続し，改訂ごとに更新

♣ 2016年度～ フリースクール等民間団体・施設等との連携 **〔民間施設と連携〕**

フリースクール，放課後等デイサービス等と連携し，不登校児童生徒の学習の様子や努力を踏まえながら，適切に出欠の判断をする

〔連携施設〕 民間フリースクール 7箇所

放課後等デイサービス 31箇所

♣ **福山市フリースクール「かがやき」** ←「福山市適応指導教室」から名称変更 2019年 中央・東部・西部

集団での学びが難しい不登校傾向等の児童生徒が、学校以外場で、時間や内容、方法等を決めながら学ぶ。

○ 一人一人に応じた学びを、児童生徒と一緒に考え計画を立てる。

- * 個別のサポート計画の作成・運用
- * かがやき職員と学校教職員との連携
- * ケース会議の実施や専門機関との連携

○ 1人1台端末を活用し、習熟度に応じた学習や教室とのつながりを深める。

- * EdTech教材やオンライン授業、Web会議システムの活用

○ 多様な活動の場を設定し、興味・関心、知的好奇心を醸成する。

- * スポーツ（体づくり教室、ボルダリング体験、ダンス 等）
- * 芸術（陶芸体験、イラスト教室、楽器演奏 等）
- * IT（ドローン体験、プログラミング 等）
- * 自然体験（植物栽培 等）



利用者数の推移

(人)

	2019	2020	2021
小学校	25	58	94
中学校	40	63	111
合 計	65	121	205

2021年度地域別利用者数

(人)

	中央	東部	西部
小学校	56	21	17
中学校	62	21	28
合 計	118	42	45

♣ 校内フリースクール「きらりルーム」

教室での学びが難しい児童生徒が、興味のあることから取り組むことができる教室。

2018年度

中学校6校（東・城南・城東・中央・誠之・神辺）に設置

2019年度

小学校2校（曙・新涯）に設置

設置校の取組を踏まえ、学校独自で工夫して、
集団での学びが難しい児童生徒が学べる教室を設置。

2021年度

小学校：21校 中学校：23校 義務教育学校：1校

○ きらりルーム利用者数（のべ人数） (人)

	2018	2019	2020	2021
小2校	—	46	42	47
中6校	134	148	157	134



端末を活用し、自分のペースで学習



興味あることにチャレンジ

○ 設置校の不登校者数の推移 (人)

	2017	2018	2019	2020	2021
小2校	10	12	10	7	15
中6校	141	95	106	83	145

太枠は、きらりルームを設置した年度。

『Kirari agayaki PROJECT』

福山市フリースクール“かがやき”と、
校内フリースクール“きらりルーム”の連携

・文化、芸術、スポーツ、野外活動、
ICTの活用など、多様な学びの展開。



合同スポーツ大会

♣ 学びを開く「学校図書館」

児童生徒が落ち着いて読書を行うことができる安らぎのある環境や知的好奇心を醸成する開かれた学びの場としての整備



〔外部人材活用〕

学校図書館コーディネーター
児童文学評論家
赤木かん子 氏

市民、企業・団体の皆様からいただいた寄附の活用による整備

◆ めざす学校図書館の姿

- ・ 子どもたちが楽しく散策しながら、読みたい本をいつでも手に取りリラックスできる空間
- ・ 「不思議！」「もっと調べたい！」とわくわくしながら興味を広げ、想像を膨らませる場
- ・ くつろぎながら、静かに本を読みふけることができる場

◆ 改装スケジュール

- ・ 2019年度から5年間で、市立小中義務教育学校（全100校）を改装
※2021年度末現在 小学校41校 中学校18校 義務教育学校1校 改装

◆ 図書館補助員の配置

- ・ 司書教諭等と連携し、日常的に、蔵書の整理、環境整備、学校図書館を利用した授業支援、読み聞かせ等を行う。
※2016年度(10人) 17年度(15人) 18年度(17人) 19年度(24人) 20年度(28人) 21年度(34人) 22年度(37人)



♣ 放課後チャレンジ教室（地域学習活動支援事業）

〔地域と連携〕

地域に在住している退職教職員や、地域住民・大学生などの支援を得て、児童に国語・算数を中心とした基礎的な内容の学力補充を行うとともに、学習意欲の向上、学習習慣の定着を図る。

- 【時間】 週1回 1～2時間
 【場所】 図書室や小学校の空き教室、公民館など
 【対象】 小学校4～6年生 各教室20名程度
 【教材】 チャレンジ教室問題集〔国・算〕（ライオンズクラブからの寄附）

	2017	2018	2019	2020	2021
教室数	26	26	29	30	33
ボランティア講師（人）	157	111	146	182	187
参加児童（人）	517	455	467	413	500



参加児童アンケートによる意識調査

	2017	2018	2019	2020	2021
チャレンジ教室で勉強するのが楽しみ	79.9	81.7	80.8	78.8	81.3
学習意欲が高まっている	76.7	80.5	81.6	78.5	84.7
「わかった」「できた」と思うことが増えた	84.3	87.0	88.8	86.8	89.2
学校の勉強がよくわかるようになった	79.3	75.5	78.9	78.0	79.9

♣ 芸術文化体験

「10歳の君へ よこそ美術館プロジェクト」

全市立小学校4年生（約4200人）を「ふくやま美術館」に招待

〔他課と連携〕
文化振興課



対話型鑑賞 学芸員が児童に質問し、子どもたちが感想を話し合いながら、見方・感じ方を広げ、深める。



鑑賞後アンケート（2022年）

はじめて美術館に来た。	41.2%
作品のよさや面白さを感じた。	97.3%
作品を見たり説明を聞いたりして新しい発見があった。	93.2%
また、美術館に行ってみたいと思う。	94.1%

「ばらのまち福山国際音楽祭」 ～未来につなぐ子どもたちへのコンサート～

〔他課と連携〕
文化振興課

全市立小学校5年生（約4200人）を音楽祭に招待

本物の芸術文化に触れることを通して、一人一人の可能性を開花させる素地を育む。



鑑賞後の感想

- ・ 初めてオーケストラの生演奏を聴き、すごい迫力で、感動した。
- ・ 美しい音色で、聴いていて気持ちよかった。
- ・ 音楽を楽しんでいることが伝わってきた。

「伸びゆく子どもの未来とともに 渋谷育英会N響コンサート」

〔公益財団法人と連携〕

教育と文化の振興及び地域社会の健全な発展に寄与することを目的とした公益財団法人「渋谷育英会」から招待を受け、NHK交響楽団の演奏を鑑賞する。

※2020, 2021はコロナの影響により中止

【対象】 小5・6年 中1～3年（学年単位での希望）

年度	2017	2018	2019	2022
参加校数	27校	23校	31校	27校
参観人数	1545人	1542人	2271人	2550人

♣ 学校再編による新たな学校【2022年度開校】

義務教育学校「想青学園」

知・徳・体をバランスよく身に付け、様々な人々と協働して地域・国・世界の発展を担う人づくりを行う

【場所】 2中5小再編後の千年中学校

【学習】 ESD（持続可能な開発のための教育）に関連する分野をテーマにした「国語・外国語教育」「理数教育」「ふるさと学習」 基礎となる体力・気力を育む「学校体育活動」



校舎・教室
完成予想図



中中再編校「新市中央中学校」

地域の歴史、環境、文化、企業等を素材とした探究学習を通して、協働して新たな価値を創造する学校

【場所】 2中再編後の新市中央中学校

【学習】 新市中央中で取り組んできた「探究学習」と常金中の「ふるさと学習」を組み合わせた探究学習の充実

イエナプラン教育校「常石ともに学園」

異年齢集団（1～3、4～6年生）を編成し、対話・遊び・学習・行事等の4つの活動を基本に、個々の違いを大切にする

【場所】 再編後の常石小学校

【学習】 ○ ブロックアワー（自立・基礎学習）…自分で計画したり、異年齢で意見交流したりしながら学ぶ
○ ワールドオリエンテーション（協働・総合学習）…地域や科学・技術などをテーマに、異年齢で探究する



1～3年生の異年齢集団による学習



特認校「広瀬学園」

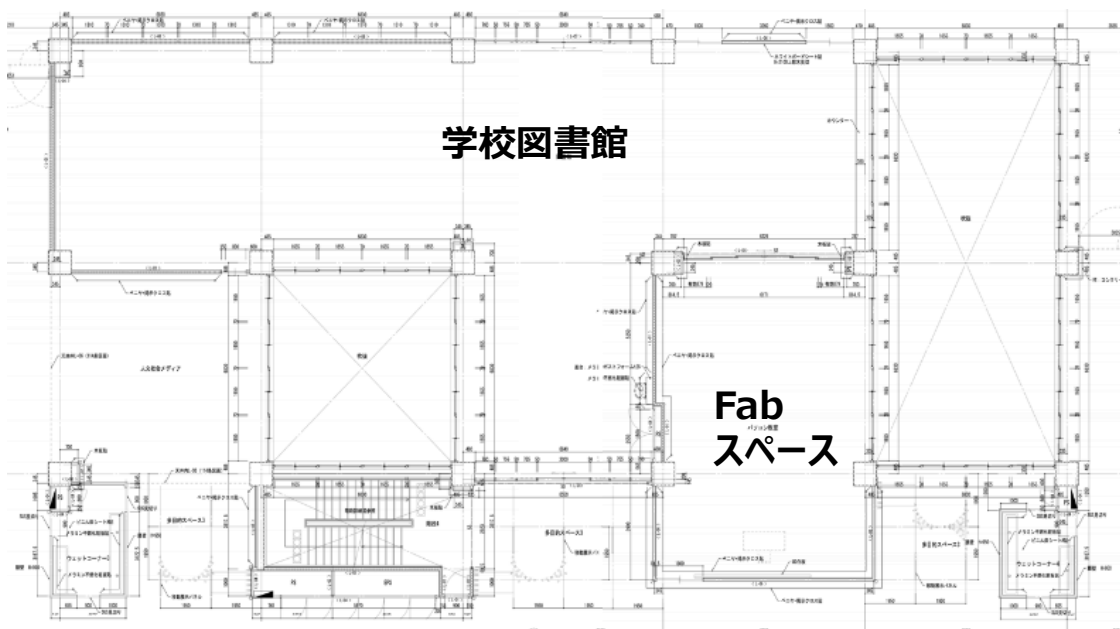
在籍校への登校が難しい、集団への適応が難しいなど、教育上の配慮が必要な子どもたちを対象とした小中施設一体型校

【場所】 1小1中再編後の広瀬中学校

【学習】 ○ 独自教科の創設…体験的な学習
○ 一人一人の理解度に応じた学習…ICT教育機器の活用

♣ 学びをつなぎ広げる環境整備

想青学園 ○Fabスペースやメディアスペース（言語・人文社会・数学・理科・音楽・アート等）を配置



常石ともに学園 多様な学びの形態に柔軟に対応できる空間



♣ 学びをつなぎ広げる環境整備

靱の浦学園 福山ブラブランド「靱学」を中心に地域の学習素材を発表できる舞台があるオープンスペース



東小学校 廊下にベンチや伝統的行事「とんど」の展示スペースがある昇降所



♣ 学びをつなぎ広げる環境整備

戸手小学校

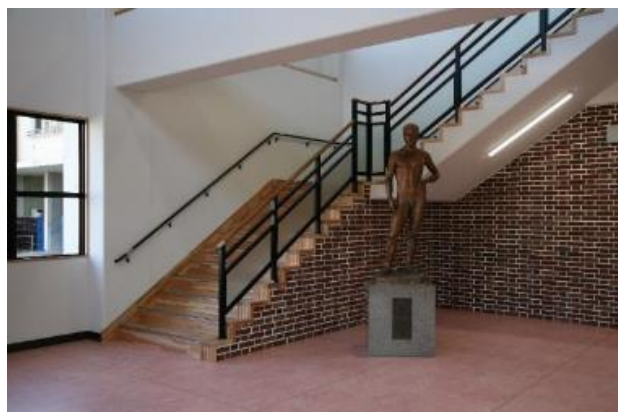
木材をふんだんに使用した大空間の昇降所

登下校時や休憩時間には、ミニ集会ができる大階段



城北中学校

旧校舎の歴史的な空間を継承した玄関ホール



2022年（令和4年）3月定例市議会答弁

〔質問〕 第三次福山教育振興基本計画策定にあたり、めざす姿の実現に向けた教育長の思い。

〔答弁〕 一部抜粋

第二次計画の成果と課題を踏まえつつ、急速に浸透するデジタル化など社会情勢の変化に柔軟に対応し、よりよい社会を創っていく人材を育成していくため、引き続き「福山100NEN教育の推進」を基本理念に、各施策に取り組んでいきます。

すべての人が年齢や環境に関係なく、主体的な学びを通して自らの可能性を広げ、多様な他者と関わりながら、希望を持って豊かに生きていくことができるよう、未来を切り拓く教育を着実に進めてまいります。

